

# 令和元年度 第2回本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会

## 議 事 録

日 時：令和元年9月6日（金） 午前10時～11時20分

会 場：本郷新記念札幌彫刻美術館 本館研修室

出席委員：竹本和子（札幌市立大倉山小学校PTA副会長）、青山貴志（宮の森まちづくりセンター所長）、國松明日香（彫刻家）、村上裕子（札幌市立三角山小学校長）、寺嶋弘道（本郷新記念札幌彫刻美術館長） 以上5名

所 管 課：堀井一生（札幌市市民文化局文化部文化振興課振興係長）\*委員代理としても出席、吉澤崇博（同文化振興課振興係事務職員）

事 務 局：岩崎直人（本郷新記念札幌彫刻美術館業務係長）、山下秀幸（同業務係事務職員）、山田のぞみ（同業務係事務職員）

次 第：1 開会

2 議事

（1）令和元年度 第1回 理事会報告

（2）令和元年度事業 経過報告

（3）入館者アンケート集計

（4）各種規程、要綱、マニュアル等の策定報告

（5）意見交換

（6）その他

3 閉会

当日配付資料：

- ・令和元年度本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会委員名簿
- ・令和元年度第1回本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会次第
- ・本郷新記念札幌彫刻美術館令和元年度事業経過報告
- ・入館者アンケート集計
- ・「ご利用にあたって」（貸館に関わる規程）
- ・令和元年度開催事業チラシ等（3種）

議事内容：

（1）令和元年度 第1回 理事会報告

事務局より、6月10日（月）に公益財団法人札幌市芸術文化財団理事会が行われたことが報告された。平成30年度決算報告について、特段問題なく承認されたこと、また、二人の理事（川上佳津仁氏、廣田恭一氏）が新たに就任したこと、二人の評議員（阿部博光氏、有塚広之氏）が新たに着任したことが報告された。

## (2) 令和元年度事業 経過報告

事務局より配付資料に基づき、今年度8月31日までの事業の経過報告を行った。

## (3) 入館者アンケート集計

事務局より配付資料に基づき、アンケート集計の報告を行った。

## (4) 各種規程、要綱、マニュアル等の策定報告

事務局より配付資料「ご利用にあたって」に基づき、本館「展示室」および「研修室」の貸館対応をするに当たり、野外彫刻の仮固定工事完了、敷地内禁煙の実施といった変化に合わせて、文言等の整理を行った旨を報告した。

## (5) 意見交換

竹本：大倉山小に通う小学3年生の娘が、「わくわく★アートスクール」や「ブロンズ粘土で彫刻をつくろう」に参加。講師・藤本和彦氏の、親から子への注文を抑止する指導方針が子どもの心を解放し、無制限に表現させているようで、親である私もとても好い環境、時間を過ごすことができた。学校教育ではこうした指導方法の導入は難しい、美術館ならではの。

村上：「わくわく★アートスクール」を通して、美術館内の好きなところに展示できるという経験がとても刺激的だったようで、子どもたちの五感を掘り起こしてくれた。教育の現場も変革が進んでおり、来年度は学習指導要領が約10年ぶりに改訂される。地域に開かれたこの美術館との関係を強めたい。

國松：美術館という場所で、美術家を講師に、正解を求めるようなやり方ではなくて、自主性を大事にしながら何かを作る、表現するという点は子どもたちにとって良い経験であろう。美術館で展示ができるのも凄い経験だ。

青山：高校3年生の子がいる。造形教室に3～4年通わせたが、考え方なんかも自由に伸び伸びしているように見える。環境を提供するというのは大事なこと。彫刻美術館にはそういった気風と方針で事業を続けて欲しい。

吉田：外国人は展覧会を目当てに来るのではなくて、美術館という施設に来ている。情報の提供が大切だ。

國松：野外彫刻の「公開セミナー」を拝聴した。そこで感じたことなのだが、野外彫刻への注目度の高さも考慮すると、いざという時（彫刻が倒壊するなど）のために即座に措置を講じるための財源を市のなかで確保できないだろうか。一時しのぎだとまた、大きな事故につながりかねない。

## (6) その他

記念館の異臭が近頃とみに際立っている件について、事務局から報告。